BAISOUIN NEWS AOYAMA

梅窓院通信 青山

春彼岸号

No.87

2017/03/01

郡上八幡の冬の風物詩、鯉のぼりの寒ざらし。特集ページでご覧下さい。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 **中島 真成**

平成二十九年も、はや春彼岸を迎える頃となりました。皆様お元気でお過ごしのことと存じます。

さて、今年のお正月ですが、毎年元旦に集中するお参りが、元旦も例年より多かったうえに、二日、三日にもたくさんの方にお参りいただきました。新春三が日を大忙しで過ごさせていただきましたが、ご本尊はもとより、私たち僧侶、職員も大変喜んでおります。もしかしますと、長期休みが取りにくく、帰郷や遠出を控えられたからかもしれませんが、ご自宅で迎える正月ならば菩提寺に参拝、ということですので、本当に嬉しい限りです。

新しい梅窓院になってから早いもので十四年目を迎えますが、この間、最も力を入れて取り組んできたのが墓苑の整備です。と言いますのも、青山という立地に恵まれていることが最大の魅力の当院ですので、お墓参りの時間を遅くまでにしたり、少しでもお墓参りのしやすいお寺にしたい、というのが私の最大の使命であり課題でした。ですので、立地やお参りの時間とともに、どなたでも無理なくご先祖様に会いに来られるバリアフリー化された墓苑が最終目標でした。その目標をようやく今年中には達成できることになりそうです。

これまでに重ねてきた墓苑整備の中で、何度もお墓を移動していただいた方もいらっしゃいます。振り返れば、本当に皆様のご理解とご協力があってこその完全なバリアフリー化です。誌面からではありますが、改めて心より御礼申し上げます。そして、墓苑関係ではもうひとつ、樹木葬を始めます。詳細は改めてお知らせしますが、こちらもご利用、ご紹介いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、今年の五月二十七、二十八日の一泊二日で京都の総本山知恩院と大本山清浄華院に団体参拝を致します。詳しくは同封の案内チラシをご覧下さい。清浄華院は私が「長老」という役をいただいている大本山です。どうぞ、皆様のご参加をお待ちしています。

法話

仏教歳時風物詩（37）

彼岸団子と牡丹餅

新宿区　香蓮寺住職　勝崎 裕彦

供え物、つまり供養の品々にはまごころのこもったものが大切であることはいうまでもない。思いを込めた、願いを込めた供物の一つ一つには、供養者の温かいやさしい配慮、心配りが添えられて、尊くゆかしい供え物になるのである。

青黄赤白の色とりどりの供花のきれいなかぐわしいほほえみも、百味の五菓のさまざまにしつらえたおいしさも、供える人のまごころを寄せ合って、捧げ合うことによって光り輝くのである。ましてや、そうした供養の品々に人の手を加えて、とくに祖母や母のやさしい慈愛の手作りを経た供え物となれば、その尊さ、うるわしさもまことにかぎりないものがある。

春彼岸――、私は遠くはるかに子供時分の彼岸団子や牡丹餅の味を思い出しながら、仏教ことわざや仏教俳句を検索してみたい。

昔からの言い伝えに、「入り牡丹餅に明け団子、中の中日は小豆飯」といい、彼岸七日の入り・中日・明けとそれぞれの食べ物を並べ供えたものである。しかも仏さまにお供えをしてから、それを家族揃ってありがたくおいしく食べ合ったのである。

ことわざに、「彼岸七日に団子七つ」という。仏前に一日一つずつの団子を供える、そういう風習もあった。「彼岸が来れば団子を思う」とは、お彼岸に仏さまのご供養のことを思うことより先に団子のことを考えてしまう。肝心かなめを忘れて、気楽なこと、気の向くことに頭が行ってしまうことのたとえである。「彼岸の団子で気がそれた」というのも同じような謂である。だから、「彼岸団子にあてられると死ぬ」などという不吉な俗信まで行なわれることになる。

そんな彼岸団子、せっかく季語欄に挙げられていながら、目につくほどの例句が見つからない。仕方なく拙句をひねって掲げてみる。

彼岸団子母の作りしあの日かな　（裕彦）

こんなのを一句とするのは少し恥ずかしいのであるが、いささか亡き母を想う仏心のこもった句であると受けとめていただきたい。

牡丹餅は、文字通り、形状が牡丹の花に似ているから「ぼたんもち」ともいった。萩の餅・お萩・萩の花・きたまど（北窓の月に搗き入らずを掛けたもの）・隣知らず（隣人も気づかないと搗かないを掛けたもの）などの異称もあり、彼岸の季語欄には彼岸餅を挙げている。

命婦よりぼた餅たばす彼岸哉　（蕪村）

よく例示される与謝蕪村の彼岸句である。格式高い官女（命婦）よりも、まずは賜りくださった（たばす）牡丹餅が、なんといってもよい。

妻の手に玉と育てり彼岸餅　（昌華）

林昌華は、師の中村草田男の主宰する『万緑』の編集に携わった人であるが、夫人が丹精を込めて作った牡丹餅を、しっかりと見つめている。

さて正岡子規である。子規は柿が大好きで、そして牡丹餅が好きであった。

牡丹餅の昼夜を分かつ彼岸かな　（子規）

明治二十九年春分の日、牡丹餅を食べる子規である。

病牀に日毎餅食う彼岸かな　（『墨汁一滴』）

牡丹餅ノ使行キ逢フ彼岸カナ　（『仰臥漫録』）

病床に臥す子規にとって、お彼岸の賜物は牡丹餅の殊更なおいしさであったことであろう。

（大正大学前学長）

一月の行事報告

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。
元旦から沢山の方がお参り下さいました。

修正会の後におせちとお雑煮を楽しむ参拝者の皆さん。

今年で8回目となる修正会法要。

春彼岸法要

三月二十日（月）

彼岸寄席
午後一時～地下二階 祖師堂

春彼岸法要
午後二時～地下二階 祖師堂

塔婆申込み方法
同封のはがきを使い**三月十日(金)必着**でお申込み下さい。
塔婆回向料は**一本七千円**とさせていただきます。

お支払方法
同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払いいただくか、**当院受付**までお持ち下さい。(銀行でのお振込みはできません。)

プロフィール

立川小談志師匠
岐阜県出身。
昭和51年9月8日生まれ。
本名　寺田政春
〈芸歴〉
1999年5月立川談志に入門。
前座名「談吉」。
2007年7月二ツ目昇進
「泉水亭錦魚」を襲名。
2011年11月談志死去のため、
2012年4月龍志門下へ。
2015年10月真打に昇進
二代目「立川小談志」を襲名。

お檀家様へお願い
三月十七日～二十三日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

春彼岸物産展

3月19日・20日　観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやってきます。この機会にぜひお求め下さい。

※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

春彼岸によせて

春なお浅く、朝夕の冷え込みもまだきびしい昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか。

私たち梅窓院の宗派は法然上人のお開きになった浄土宗です。上人はご生涯の中で数多くの人々と出会い、お念仏の御教えを広めて参りました。

法然上人に帰依した人物の中に九条兼実（くじょうかねざね）公がいます。兼実公は平安末期から鎌倉初期にかけての摂関政治をした人物です。

兼実公が法然上人と出会ったのは、自身の息子を早くに亡くした事がきっかけでした。

世の無常を痛感し、悲嘆に暮れていた兼実公は自邸に法然上人を招き、そこで、お念仏の教えを拝聴したのです。傷心していた兼実公はお念仏の教え、法然上人のお人柄に感銘を受け、帰依しました。そしてついに法然上人のもとで出家しました。

数年後、兼実公は法然上人との今生の別れを迎えます。法然上人を大変お慕いしていた兼実公は大層嘆かれました。この兼実公の想いをくみ取り、法然上人はひとつのお歌を歌われました。

つゆの身は
ここかしこにて　消えぬとも
こころはおなじ　花のうてなぞ

（朝露のように、はかないわが身は露が風で（転げ落ちて）消えるように、いつどこで死ぬかわからないけれど、思いはあなたと同じです。蓮の台でお会いしましょう）

お念仏をお称えしていれば必ず極楽浄土で再会できる、どんなに離ればなれになろうと思い悩む必要はないのです、というお歌であります。

これは私たちとご先祖様にも同じことが言えます。大切なご家族を亡くした時、寂しいなあ、もう会えないのかな、と思うものです。しかし、その様な時こそお念仏を致しましょう。そうする事で、阿弥陀様にお導きいただき、必ず極楽浄土で亡きご家族と再会する事ができるのです。

来る三月二十日、梅窓院にて彼岸会の大法要が執り行われます。お彼岸は昭和二十三年の法律により、「先祖を敬い、亡き人を偲ぶ日」とされました。大法要にお参りに来られた際は、亡き人の浄土での再会を今一度強く願い、共々にお念仏を致しましょう。

（法務部）

平成二十九年
春の動物慰霊法要のお知らせ
梅窓院の僧侶がご供養に努めます。
ぜひご参列下さい。
正午～　二階本堂にて
主催：株式会社日本エキスパートシステム

梅窓院開基・青山家の故郷、郡上八幡の冬の風物詩

鯉のぼりの寒ざらし

お盆に徹夜で踊る「郡上おどり」で全国的に有名な郡上八幡。その郡上八幡には冬の風物詩もあります。郡上本染の鯉のぼりの糊を水中で落とす寒ざらしです。今回はこの郡上八幡の冬の風物詩、鯉のぼりの寒ざらしの様子をお届けします。皆様が本誌を手にお取りいただく春彼岸号からちょっと時間を巻き戻します。

寒気団に日本列島が覆われた一月二十日、午後一時から大寒の日に鯉のぼりの糊を落とす作業、寒ざらしが郡上八幡の名所、宗祇水付近（吉田川と小駄良川の合流付近）で行われました。

通常は紺屋さんの大きな水槽で行われる作業を一人でも多くの観光客や地元民にも見てもらおうと、昭和四十五年からこの寒ざらし作業の公開が行われています。そして四年前からは前夜のライトアップも始めたことで、宿泊客も、外国からの観光客も増えているようです。

寒ざらしの主役となる鯉は、初節句を迎える男の子のためにと全国から注文されたもので、この鯉のぼりを作るのが、渡辺染物店の　　さん。渡辺染物店はかつて八幡町内に十七軒あった紺屋さんの中で唯一残ったお店で、屋号は「菱屋」。そして　　さんは十四代目「　　」で、昭和五十二年に岐阜県の重要無形文化財という技術保持者になられています。現在は　　さんの息子さんの　　さんと、　　さんの弟、　　さん、その息子さんの　　さんとそれぞれの家族で四百年を超える伝統技法を守り続けているそうです。そして、この郡上本染は化学藍が普及する中で、その天然の藍色の美しさと高品質さに全国から暖簾や半纏などの注文が入ります。また、初節句を迎える男の子のための鯉のぼりの注文も少なくないそうです。

渡辺染物店の第十四代
こと、　　さん

最近、都内ではほとんど見かけなくなった鯉のぼりですが、青空高く鯉のぼりを揚げるのはまさに日本の伝統行事。子供の成長を願う家族の想いに応えるようにたなびく姿を懐かしく思う方も多いのではないでしょうか。

さて、今から六十三年前の昭和二十九年に家業を継いだ　　さん、「揚げる為の鯉のぼりが、作る途中で注目されるようになったのには少々戸惑った」といいます。そんなさんが素敵な話をしてくれました。

寒ざらし前夜、ライトアップで浮かび上がる鯉のぼり

「永年やってきて嬉しいのは、『　　さんのは、やっぱり味があるね』って言われる時かな。物作りは同じ様に精根込めても上手くいかない時もあって、上手い下手は仕方がないのだけど、こう言ってもらえるのは職人冥利に尽きるね。味ってのはその職人ならではの物だからね」

この　　さんの鯉のぼり、特徴は鮮やかな色使い、そしてその色の強さだそうです。一昨年この鯉のぼりを買い求めた元梅窓院の職員に聞いたところ、「特に黄色が素敵で、真鯉の漆黒と緋鯉の深紅にとっても映えます」とその魅力を話してくれました。

こうして多くのファンを持つ郡上本染の鯉のぼり。その色を出すための寒ざらしは、竹枠にピンと張られた木綿の布に絵付け染色したものを冷水にさらし糊を落とす作業です。そして、冬の寒い時期の冷水で行うからこそ発色がよくなることから、大寒の日を選んで行うそうです。今年も雪が舞い散る中、黒い真鯉と赤い緋鯉、あわせて十六枚（八匹分）が前日の夜から清流に泳がされ、ブラシとおたまで糊をこそげ落とす作業が、三回にわたり公開されました。今年特に目を惹いたのが、ちびまる子ちゃんで有名なさくらももこさんが、昨年自ら申し出て作った郡上八幡のキャラクター、GJ8マン。「郡」の「ぐ＝G」と「上」の「じょう＝J」、「八幡」の「八＝エイト」からの命名だそうで、その絵が描かれた鯉のぼりでし

寒ざらしの作業には郡上本染後援会の方々も手伝われる

た。注文品ではなく、宣伝用とのことでしたが、テレビ局や新聞社はもちろん、アマチュアカメラマンの注目を集めていました。

また、午前中には郡上八幡旧庁舎で新年祭が開催され、式典内の神事で梅窓院住職も玉串を奉納されました。会場裏の駐車場では寒ざらしの【ふるさと学習】として八幡小学校の四年生、五十五人が色付け作業を体験しました。そして二月には色付けした鯉のぼりを自分たちで寒ざらしをするとのことでした。

「小学生時代の鯉のぼり作り体験はいいことだね。郡上八幡の染物文化に触れておくことで、大人になって郡上を離れても、鯉のぼりの季節になれば自分で作ったことを、そして故郷を思い出すからね」と　さん。自らが守り続けてきた郡上本染が地域に根差していくことに目を細められていました。

式典中の神事で玉串を奉納する梅窓院中島住職

夏の盆踊り、新緑と紅葉に彩られる春と秋、そして冬の寒ざらし。梅窓院の開基、青山家の故郷郡上八幡は一年中楽しめる、それを実感した冬の郡上八幡への訪問でした。

↑GJ8（ジージーエイト）マンが描かれた鯉のぼりの糊を落とす　さん。郡上八幡出身のデザイナーでGJ8マンのアニメ制作と声を担当する

さくらももこさん作、GJ8マン

式典後、　さん（右）と郡上本染後援会会長の　さん（左）と記念撮影

インタビュー

梅窓院を囲む人々

supporters of baisouin

梅真会会員
蓮性院副住職

今号は梅真会の若い会員にご登場いただきました。平成18年まで梅窓院で活躍されていた　　上人、43歳です。加藤上人は愛知県岡崎にある蓮性院の副住職、そして蓮性院の本寺となる大樹寺に勤められています。今回は団体参拝でも訪れたことのある大樹寺に　　上人を尋ねました。

◆本日はお忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございます。また、昨年大樹寺の貫主となられた　　上人にもお迎えいただき、重ねて御礼申し上げます。

いいえ、遠くまでようこそお越し下さいました。今日は梅窓院の中島住職もお見えになるというので、貫主も京都からお戻りになられました。

◆それは大変恐縮です。　貫主のご尊父、　　総本山知恩院第八十六世門跡には、この『青山』の表紙の題字、青山という字をお書きいただいている上に、　貫主が知恩院の執事を務められている頃には中島住職が大変お世話になっています。

そうでしたね、色々なご縁がつながりますね。

◆　貫主はいつ大樹寺におあがりになられたのでしょう。

昨年の10月です。私が梅窓院を退職して岡崎に戻ってすぐに大樹寺のお手伝いを始めましたが、早いものでもう10年が経ちます。　貫主は私が大樹寺に入山して2人目の貫主になられます。

◆貫主にも記念撮影にお入りいただき、本当にありがとうございます。住職も大変喜んでいます。

さて、梅窓院時代の話を伺わせていただきたいのですが、上人の在籍はいつだったでしょうか。

平成11年から18年までですね。

◆どなたのご紹介でしたか。

今も法務部にいらっしゃる成田公応上人にご紹介いただきました。また、私の寺、蓮性院の近くに松明院という浄土宗のお寺があるのですが、そこの先代住職だった　　上人も梅窓院に随身されていたこともあり、安心してお世話になりました。

◆入られた時の印象は。

佛教大学を出てから増上寺の研修生を経て梅窓院に入りましたが、とても驚いたのは、寺務所にパソコンが1人1台あったことですね。いまでこそ当たり前の時代ですが、当時は珍しかったと思います。

大樹寺の　　貫主（中）、　　上人（右）と中島住職。
大樹寺の本堂内陣で御本尊と一緒に。

笑顔で梅窓院時代の
思い出をお話しいただきました。

大樹寺から車で約15分、
小高い丘の上に建っている蓮性院。

◆なるほど。

そして葬儀式や法事でも教わることばかり、右も左もわからなかった新米僧侶ですから、住職や先輩僧侶に本当に色々教えていただきました。今でも感謝しています。

◆　上人の頃の学寮は、どんな様子だったのでしょう。

今の新しい建物になる前の旧祖師堂が学寮でした。3部屋あって、　上人、成田上人がいらっしゃいました。昼食は庫裏の奥の食堂でいただきましたが、朝食と夕食は各自でとっていました。

◆なるほど。これまでこの梅真会シリーズにご登場いただいた先輩方とは時代が違いますね。

ええ、私が入った時は既に現在の真成住職の時代で、梅窓院が生まれ変わる前でした。

◆新生梅窓院の工事開始が平成13年からですので、2年前ですね。

ええ、約2年で昔の建物から仮本堂となったバイ・キューブに移りました。今の境内駐車場入り口の左斜め前にある建物です。

◆現在は隈研吾設計事務所となっている建物ですね。

はい。仮本堂には2年ぐらい居て、現在の新しい梅窓院ができ上がり、2度目の引越をしました。ですから、3つの建物にお世話になりました。

◆早いもので新しい梅窓院になって14年目を迎えています。今では昔の建物を知らない僧侶や職員の方が多くなっています。

そうですか。でも、今でも行事のお手伝いで梅窓院に伺うと、「あら、　上人」と声を掛けてくれる檀家さんがいらっしゃって、とても嬉しいです。

◆そうそう、　上人といえば、奥さまも梅窓院の職員だった方ですね。

やはり聞かれますね（笑）。ええ、同期で梅窓院に入った　さんと結婚しました。梅窓院を退職した翌年です。

◆同期の方だったのですね。実は奥様の　さんが退職される前に、この『青山』を編集するにあたってのマニュアルを作られまして、それが今でも大変役に立っています。今日はお勤めということでお会いできず残念ですが、よろしくお伝え下さい。

ありがとうございます。妻も色々なことを経験させていただいたことに感謝しております。

◆最後に梅窓院の魅力がありましたら、お聞かせ下さい。

そうですね、街中のお寺にも関わらず開かれたお寺で、大変多くの魅力ある行事を行っていること。そして、とても丁寧につきあってくれる檀信徒さんがいること。

魅力は他にもたくさんありますが、特にこの2つだと思います。

◆なるほど、このインタビューをお読みいただく檀信徒さんも喜ばれます。本日はありがとうございました。

青山散歩道

北京料理
随園別館

随園（ずいえん）別館　新宿店

今回は東京メトロ新宿三丁目駅・新宿御苑前駅から徒歩三分の場所にある、台湾系北京料理屋の随園別館　新宿店をご紹介致します。

こちらのお店は梅窓院住職が約四十年も通っているというお気に入りのお店。本格的な北京料理を、お財布に優しいお値段でいただくことができます。

「随園別館」と言うからには本館もあるのだろうか?と思った方もいらっしゃるでしょう。元々は「随園」という名前でお店を開いていたのですが、漢字の画数が風水的に良くなく「別館」を付けると良い、とアドバイスされ、「随園別館」と名前を変えたそうです。

全十三種類のランチメニューの中で住職のおすすめメニューは、「激辛ランチセット　麻婆豆腐」。麻婆豆腐の他に八宝菜やデザートの杏仁豆腐も付いてくるお得なセット。

店長一押しは水餃子、合菜載帽（五目野菜炒め玉子焼きかけ）。春餅という小麦粉でできた薄い皮で肉・野菜炒め・卵などを巻いた春巻きの元祖料理です。

アットホームな雰囲気のお店で、美味しい本場の台湾系北京料理をいただいてみてはいかがでしょうか。

春巻の元祖料理、合菜載帽。1200円。皮の春餅は別売りで1枚50円。

営業時間／ランチ 月～木11:00～15:00
ディナー 17:00～23:00
金～日・祝11:00～23:00
定休日／無休
席数／60名着席
住所／東京都新宿区新宿2-7-4
TEL／03-3351-3511

2階は中華の定番である円卓テーブル席。

激辛ランチセット（麻婆豆腐）。780円。熱々な土鍋に入った麻婆豆腐は唐辛子と山椒が効いて本格的な辛さが堪能できる。また飲茶セット（水餃子）もおすすめ。

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長
大崎 紀夫

◎特選
○手土産の地酒が合うよ牡丹鍋

◎入選
○とり年のめでたきことよ百歳に
○柚子風呂で心ほつこり星の夜
○年始め仏花に松を加へけり
○濠に浮く島を眺めて日向ぼこ
○白菜の採り残されてゐる畑
○酸つぱさもひと際冬の夏蜜柑
○年暮るる工事現場は閉ざされて
○大晦日一年を背に子の戻る
○黒豆の香りただよふ年用意
○いつの間にか手はポケットに初氷

◎選者詠
○枯やなぎ堀の向かひに佃煮屋　**大崎　紀夫**

〈ワンポイントアドバイス〉
ハンディーな歳時記には三千～五千の季語が、大歳時記あたりでは一万七千くらいの季語が収録されています。しかし、有名な飯田龍太の場合、生涯に使った季語は七百～八百でした。生活環境の中で使う季語、好きな季語とかがあるようで、わたしたちが使う季語も限られているのかもしれません。それぞれがなじんだ季語を通して、自然や世界につながっていく心、というものを大切にすべきでしょう。

投句募集

次回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月7日(金)を締切、平成29年6月発送の『お盆号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。

尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062　港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第六十六回
食は命なり
食養研究家
武 鈴子

春の味覚「うど」のちから

関西では東大寺のお水取りが済むと春が来る、といわれています。地元の奈良では「おたいまつ」と火の行法を主体にして呼び習わしているようです。二月堂の回廊で夜空に火炎を上げる壮観さからの呼び名でしょうか。三月は女子のすこやかな成長を祈る雛祭り、四月はお釈迦様の降誕祭（花祭り）と春の行事で華やぎます。

食べものでは、野趣あふれる香りとほのかな苦味、シャキシャキとした歯ざわりが身上の「うど」が芽を出します。人工栽培のものが周年出回っていたりしますが、本来は春が旬の山菜です。寒気をとり除いて、体内の余分な水分を排出したり、関節痛や皮膚のかゆみ、喉の炎症を改善する働きがあるとされます。まさに、まだ肌寒く、風の強い春先にふさわしい薬効を秘めています。食べられるのは若芽のうちだけで、大きくなると役に立たないという意味で「独活(うど)の大木(たいぼく)」の語源になったとされますが、春先の強い風、湿気、残寒という三つの邪気（病気をもたらす原因）をとり除く実力の持ち主なのです。

料理は、うどの持ち味の香りと歯ざわりを生かすには、新鮮なうどの生食が一番ですが、サッと茹でて若芽やあさつきなど春の出合いものと、酢味噌和えや梅和えにしてもおいしい。葉先は天ぷらに、皮はきんぴらにと捨てるところなく一物全体で無駄なく食べられるすぐれものです。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(月)
寄席　午後1時～　祖師堂
法要　午後2時～　祖師堂
※詳細は3面をご覧下さい。

はなまつり

4月7日(金)～9日(日)
寺院棟2階　本堂

お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。

大施餓鬼会法要

5月20日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

団体参拝旅行

— 京都 知恩院・清浄華院 —
5月27日(土)～28日(日)
※詳細は同封のチラシをご覧下さい。

開山忌法要・能楽奉納

6月10日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

第71回 念仏と法話の会

6月26日(月)
時間 11時30分～(受付11時より開始)
法話　六道について
講師　群馬教区 長壽院
　　蟹和 秀顕 上人

発　　行／梅窓院
発 行 日／平成29年3月1日
発 行 人／中島 真成
編　　集／青山文化村
住　　所／〒107-0062
　　東京都港区南青山2-26-38
電　　話／03-3404-8447
F A X／03-3404-8107
ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題　　字／中村康隆元浄土門主
　　総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

私共墓苑部は春・秋のお彼岸に行なわれている動物慰霊法要の窓口になっています。該当される方にはご案内をお送りさせていただいていますのでぜひご参列下さい。

さて先日梅窓院の行事の際に仏具屋さんが持って来た仏具の中に変わったお線香がありました。「サクマドロップキャンディ」「ボンタン飴」「ミルキー」「ブラックコーヒー」と、いつものお線香の香りとは全く違う甘い香りのお線香が並んでいたのです。係の方に伺うと故人様がコーヒーをお好きだったのでその香りが欲しいというリクエストにお応えしているうちにブラックコーヒー、ミルクコーヒーと2種類の香りのお線香ができ、それをきっかけに色々な香りのお線香を作るようになったそうです。

私は「サクマドロップ」の甘い香りにつられ、思わず購入して亡父の墓前で焚いてみました。お酒の方が好きだった父は果たして喜んでくれたかな？　皆様のご要望ご意見などをぜひお聞かせ下さい。

（墓苑部　森）

平成29年度 前期 仏教講座のご案内

場　所　祖師堂(地下2階)
受講料　無料

梅窓院では4月より平成29年度 前期 仏教講座を開講します。今年度は5名の先生をお迎えしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

※今年度より、講座の時間が2通りに変更となりました。※詳しくは別紙チラシをご覧下さい。

講座　午後5時～7時(受付は午後4時から)

講　題／**『往生要集』を読む(I)**
講　師／**新井 俊定 先生**(天然寺住職)
- 第1回…4月12日(水)「厭離穢土」(1)—地獄とは
- 第2回…7月　5日(水)「厭離穢土」(2)—人道とは
- 第3回…9月　6日(水)「欣求浄土」「極楽の証拠」—極楽浄土とは

講　題／**大乗仏教を読む —『維摩経』シリーズ(5)**
講　師／**勝崎 裕彦 先生**(大正大学前学長、香蓮寺住職)
- 第1回…6月29日(木) 見阿閦仏品第十二の教え
- 第2回…7月27日(木) 法供養品第十三の教え
- 第3回…8月24日(木) 嘱累品第十四の教え

講座　午後6時～8時(受付は午後5時から)

講　題／**続『無量寿経』(巻上)を読む**
講　師／**阿川 正貫 先生**(浄土寺住職、大正大学講師)
- 第1回…4月17日(月)「四誓偈」を中心に
- 第2回…5月15日(月)「光明歎徳章」を中心に
- 第3回…8月　8日(火)「巻上」まとめ

講　題／**法然上人のみ教え —『選択集』を読む—**
講　師／**林田 康順 先生**(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺住職)
- 第1回…5月11日(木)『選択集』第10章　阿弥陀仏による讃歎
- 第2回…6月15日(木)『選択集』第11章　念仏行者の誉れ(1)
- 第3回…7月24日(月)『選択集』第11章　念仏行者の誉れ(2)

講　題／**日本人の通過儀礼(上) —生き方を問う民俗学入門—**
講　師／**本林 靖久 先生**(大谷大学、佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)
- 第1回…6月　2日(金) 妊娠儀礼
- 第2回…8月　4日(金) 誕生儀礼
- 第3回…9月15日(金) 成人儀礼

※日時は変更となる可能性もございますので、ご了承下さい。

お檀家さんに伺いました

「欠かさず参加しています」　(平成28年十夜法要にて)

毎年の恒例行事の十夜法要に参加させていただきました。
浄土宗の十夜の魅力のひとつは古くから続いていることだと思います。
元々法話を聞くのが好きで、今までに色々な寺院を訪ねましたが、
今回の法話も大変興味深く聞かせていただきました。
美味しい芋煮もいただいて心も体も温まりました。